

ワーク・ライフ・バランスって何？

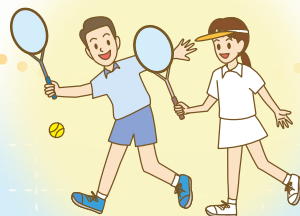
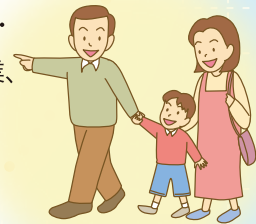
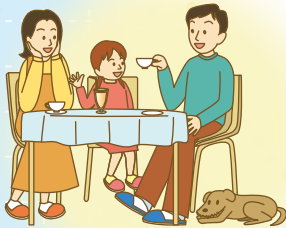
(仕事と生活の調和)



ワーク・ライフ・バランスとは、働くすべての人が「仕事」と育児や看護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外」との調和を図り、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。

ワーク・ライフ・バランスを実現することは、働く人やその家族だけでなく、企業にとってもメリットがあり、社会全体の活性化につながります。

誰もが自分のライフスタイルやライフステージに合った多様な働き方・生き方を柔軟に選択できる、「ワーク・ライフ・バランス」社会の実現に向けて、国と地方公共団体、企業、働く人が一体となって取り組むことが重要です。



WORK ワーク

ライフ **LIFE**

企業にとってのメリット

- 優秀な人材の確保・定着
- 生産性・能力向上
- 事業所イメージ・ブランド力UP など



労働者にとってのメリット

- 効率の良い働き方の実現
- 育児・介護との両立やスキルアップ、社会貢献による満足度の向上
- 健康の維持 など



ワーク・ライフ・バランスで 持続可能な社会の実現!!

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)と、経済成長は車の両輪であり、誰もが意欲と能力を発揮して労働に参加することは、国の活力と成長力を高め、ひいては少子化の流れを変え、持続可能な社会の実現にも繋がります。



ワーク・ライフ・バランスが実現した社会

就労による経済的 自立が可能な社会

経済的自立を必要とする者とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。

健康で豊かな生活のための 時間が確保できる社会

働く人々の健康が保持され、家族・友人などと充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。

多様な働き方・生き方が 選択できる社会

性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。

働き方の見直し例

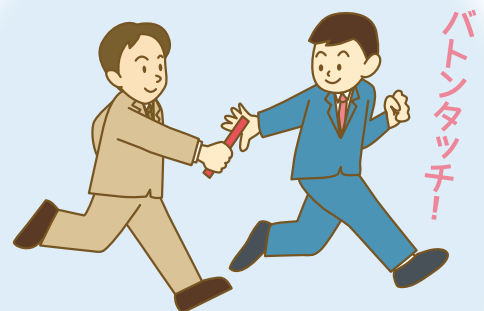
働き方を見直すことにより

会議のムダ取り



参加者や開催時間の見直しのほか、会議開催の要否確認等、ムダを徹底的に取り除きます。また会議開始時に目的ゴールの共有や、事前の資料確認、終了時間の厳守等の効率化も有効です。

標準化・マニュアル化



仕事の属人化を改め、業務を可能な限り、標準化・マニュアル化します。なお、各職場の実情に合わせて、標準化・マニュアル化する対象業務をよく検討することが重要です。

取組について

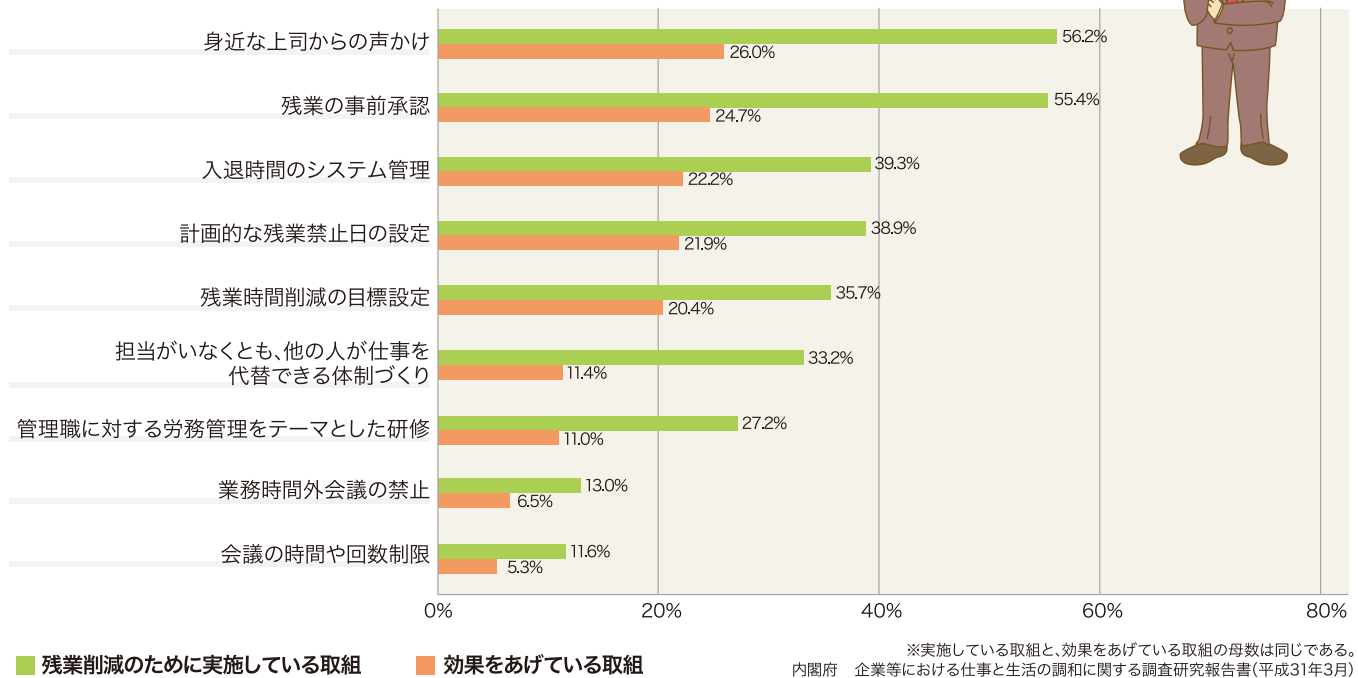
時間外労働削減のために実施している取組・効果をあげている取組

内閣府の調査によると、時間外労働削減のために実施している取組のうち、「身近な上司からの声かけ」(56.2%)、「残業の事前承認」(55.4%)などが上位となっています。その中で効果をあげている取組をみると、「身近な上司からの声かけ」が26.0%で最も高く、次いで「時間外労働の事前承認」が24.7%、「入退時間のシステム管理」が22.2%となっています。

まだまだ改善の余地はありそうだな



残業削減のために実施している取組・効果をあげている取組：複数回答 (Q16)



「仕事の効率化」が図れます。

全社員の意識を変えて効率アップ!

スケジュールの共有化



職場のメンバー全員が、時間管理ツールを用いて自分のスケジュールを公開します。お互いのスケジュールを可視化することで、職場全体で業務の効率化が図れます。

がんばるタイムの設定



自分の業務や社内の議論に集中するために、私語や従業員同士の声かけ、電話の取り次ぎ等の「雑音」を一定時間遮断して、業務を効率的に遂行する取組があります。実現には、特定の曜日・時間帯の順守と取組の継続を全社的に協力して行う必要があります。